

【参考資料】

本資料は2007年3月21日にBASF本社が発表した内容の抄訳です。

プレスリリース

2007年3月29日

BASFとモンサント、植物バイオテクノロジー分野の研究開発と商業化に関する提携契約を発表

- 干ばつなど悪条件への耐性を強めた多収量作物を開発
- 提携期間を通じ、両社で約 15 億ドル/12 億ユーロを開発パイプラインに投資
- 今後 5 年以内に、最初の製品を商業化

BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)とモンサント・カンパニー(本社:米国 ミズーリ州セントルイス)は 3 月 21 日、植物バイオテクノロジー分野での共同研究開発(R&D)と商業化に向けた、長期的な提携を発表しました。今回の提携では、多収量作物や干ばつなど悪条件に対する耐性を強めた作物の開発に重点が置かれます。提携は 3 月 21 日より開始されます。

提携期間を通じて、両社は約 15 億ドル/12 億ユーロの共同予算を計上し、トウモロコシや大豆、ワタ、ナタネについて多収量かつストレス耐性を持つ形質の実現を目指し、専用の開発パイプラインに投資します。この共同パイプラインには、多収量とストレス耐性に関する両社の既存および計画段階にある各プログラムが含まれ、植物バイオテクノロジーの分野で両社独自に行われた探索・研究活動に基づく、複数のプロジェクトにより構成されます。提携の一環として開発される最初の製品は、今後 5 年以内の商業化を目指しています。

モンサントの最高技術責任者兼執行副社長であるロブ・フレイリーは次のように述べています。「生産者に高い価値を提供する新たな形質の特定と商業化に向け、BASFと提携できることになり、嬉しく思います。将来性のある形質パイプラインの拡充と、技術交流とリスク共有により、農業生産において次世代に通用する技術の探索を迅速化できるだけでなく、モンサントが持つ収量とストレスに関する形質技術のパイプラインのリスク調整後現在価値を、事実上倍増させることが可能になります」。

BASF の取締役会メンバーとして農業・健康栄養関連部門を統括するピーター・オークレイは次のように述べています。「卓越した可能性を持つモンサントは当社の強力なパートナーであり、今回の両社の提携を非常に嬉しく思います。多収量作物の提供を通じ、食糧と再生可能資源の両分野で高まる需要に生産者が対応できるようになる、重要な第一歩となります」。

提携内容は以下の通りです。

- 両社は、専用の開発パイプラインを設け、これを共同で管理します。ここでは、多収量作物と、干ばつなどの悪条件下でも安定した収量をもたらす作物の開発に重点が置かれます。
- 上記に加え、両社はそれぞれ独自の形質探索活動も継続して行います。
- こうした活動を通じ、両社はそれぞれ特定の候補遺伝子を決定します。こうして選り出された最も有望な作物が、共同開発の対象となり、モンサントのパイプラインを通じ商業化されます。
- 両社は各社単独で実施した場合と比べ、より多くの研究プロジェクトに取り組むと考えています。また新製品の開発を強化し、より短期間で多数の形質を市場に投入できるものと期待しています。
- 候補遺伝子が商業化段階へと進む過程では、開発の各段階を通じ、両社折半でプロジェクトの資金を負担します。
- 共同開発の結果、製品の商業化はモンサントが行います。製品の商業化に関連する利益の分配については、モンサントが純利益の 60%、BASF が 40%を受け取ることで両社は合意しています。

モンサントが BASF との提携を決定した背景には、同社が特定の作物について、継続的により改善された形質を提供できると判断したことが挙げられます。BASF にとっては、モンサントの持つ形質の商業化ならびに望ましい遺伝資源の育種に関する実績を通じ、BASF の革新的技術を世界中の生産者にいち早く届けられるという利点が挙げられます。

その他の提携契約

両社はまた、今回発表した提携内容以外にも、開発と商業化に関する別の提携契約に着手したことを発表しました。これは、大豆生産者の収穫にダメージを与える寄生虫、ダイズシストセンチュウの防除方法の研究に関する提携契約になります。

これらの提携は、いずれもモンサントと BASF の植物バイオテクノロジー子会社である BASF プラントサイエンス社によって行われます。

詳細情報

モンサント・カンパニーのウェブサイト(www.monsanto.com)と BASF のウェブサイト(www.basf.com)では、今回の発表に関連したプレゼンテーションをご覧いただくことができます。

■モンサントについて

モンサントは、農場の生産性と食料品質の向上を目指し、テクノロジーを用いた解決策と農業関連製品を提供する農業のリーディングカンパニーです。同社は、顧客である農家と彼らの耕作地に違いをもたらすことのできる製品への投資に力を注いでいます。世界人口が増大する中、食料や衣料品、燃料を提供する農業と農家の支援に向け、モンサントでは、品種改良や植物バイオテクノロジーといった最先端科学を応用しています。モンサントに関する詳細は、www.monsanto.com をご覧ください。

■BASF プラントサイエンス社について

BASF プラントサイエンス社は、BASF のバイオテクノロジー子会社として 1998 年に設立されました。同社は、欧州と北米の研究開発拠点をコーディネートしており、約

700名の従業員を擁しています。農業活動の効率性向上、スペシャリティー製品向けの再生可能原料、人と動物の身体に良い栄養素などの各分野に注力しています。

BASF プラントサイエンス社は、第2・第3世代の植物バイオテクノロジー製品に特化しており、農学的価値の高い形質の探索について、強力な基盤を有します。同社の活動の基礎となるのは、他社にはない革新的な探索方法を通じたさまざまな技術基盤です。これには、クロップデザイン社(本社:ベルギー ヘント)のフェノタイピングや、メタノミクス社(本社:ドイツ ベルリン)のメタボリック・プロファイリングなどの、高い処理能力を誇る各種手法が含まれます。

BASF プラントサイエンス社に関する詳細は、www.basf.com/biotechnologyをご覧ください。

■BASF について

BASF(ビーエーエスエフ)は「ザ・ケミカル・カンパニー(The Chemical Company)」を標語に掲げる世界の化学業界のリーディングカンパニーです。BASFの製品群は、化学品、プラスチック、高機能製品、農薬、ファインケミカルから原油や天然ガスに至るまで多岐にわたります。あらゆる業界のパートナーとして信頼されているBASFは、高度なソリューションと高品質な製品によって、顧客のさらなる成功をサポートしています。BASFは、新技術の開発を通して未来の新たな課題に取り組むとともに、新たな市場を切り開いています。また、経済的な成功、環境保護、および社会的責任を果たすことでより良い未来に貢献しています。従業員数は約9万5,000人、2006年度には526億ユーロを超える売上高を計上しました。BASFの株式はフランクフルト(BAS)、ロンドン(BFA)、ニューヨーク(BF)、チューリッヒ(AN)の各株式市場において取引されています。BASFのインターネットホームページアドレスはwww.basf.comです。BASF ジャパン(株)のホームページのアドレスは、www.japan.basf.comです。

■将来の予測に関する記述について

BASF 関連:

この文書には1995年のPrivate Securities Litigation Reform Actで意味する「将来の予測に関する記述」が含まれています。これらの記述は現在の期待、BASFの経営に対する評価および予測、現在入手可能な情報に基づいたものです。これらは将来の業績を保証するものではなく、予測が困難な一定のリスクと不確実性を含んでいるほか、将来のできごとに関する、正確とは限らない仮定に基づいています。BASFの実際の結果、業績、達成事項は、多くの要因によってこれらの記述が明示的または黙示的に示したものと大きく異なる場合があります。これらの要因に関する詳細な情報はBASFが証券取引委員会に提出した報告書(Form 20-F)に記載されています。この文書に記載された将来の予測に関する記述に関しては、BASFは更新の義務を負いません。

モンサント関連:

この文書に記載された、モンサントの将来的な製品の性能、許認可、事業および財務計画、その他の歴史的事実以外の事項をはじめとする内容は、「将来の予測に関する記述」です。これらの記述は現在の期待と現在入手可能な情報に基づいたものです。これらの記述にはリスクと不確実性が伴うため、モンサントの実際の結果と業績はこれらの記述が明示的または黙示的に示したものと大きく異なる場合があります。このよ

うな相違を生み出す、またはそれに寄与する要因には、モンサントの研究開発活動が成功すること、提携に必要な知的資産をモンサントが利用または資産権を行使するにあたっての費用とモンサントの能力、許認可関連の費用とそれを取得するのに必要な期間、バイオテクノロジー製品が一般に受け入れられること、およびモンサントが証券取引委員会に直近に提出した定期報告書に記載されたその他の要因などが含まれます。これらの将来の予測に関する記述は本文書の日付においてのみ最新であり、過度の信頼を置くべきものではありません。モンサントは将来の予測に関するいずれの記述、あるいは実際の結果に影響するようないずれの要因についても更新を意図しておらず、また義務を負いません。

■本件に関するお問合せ

BASF アグロ株式会社

コーポレート・コミュニケーションズ 川端 TEL: 03-3586-9911

日本モンサント株式会社

バイオ作物情報部 佐々木 TEL: 03-6226-6081